

# 2022年度 第1四半期決算 電話会議 資料

2022年8月5日（金）

立ちどまらない保険。

**MS&AD**

INSURANCE GROUP

## 本日のポイント

### 2022年度第1四半期 業績

- ・ 四半期純利益は、前年同期比△583億円の604億円、進捗率25.2%。  
グループ修正利益は、前年同期比△894億円の550億円、進捗率18.3%。
- ・ 例年自然災害が少ない第1四半期に雹災によるロスが発生したことや、ロシア・ウクライナ関連ロスの見積額（予備的な備金を含む）を計上したことから、例年に比べ進捗率は低くなっている。

### <主な減益要因>

- ・ 国内損保2社：6月雹災（385億円）や交通量の回復に伴う自動車保険のロスの増加（194億円）
- ・ 国内生保2社：MSA生命における新型コロナ関連の給付金請求の増加  
MSP生命における外貨建て保険の標準責任準備金の繰入負担や  
前年のマーケット影響による利益の反動
- ・ 海外保険子会社：MS Amlinにおけるロシア・ウクライナ関連のロスに伴う影響（148億円）や  
マーケット変動を損益に反映させる会計処理による資産運用損益の減少（△53億円）

# 全体目次

## 2022年度第1四半期決算の概要

グループ連結	P5-12
国内損害保険会社	P13-15
国内生命保険会社	P16-17
海外保険子会社	P18
（参考）国内損害保険会社主要 2 社の業績概要	P19-21
（参考）MS Amlin 業績概要	P22
（参考）ESRの状況	P23

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」もご参照ください。

## 2022年度 第1四半期決算の概要

損保子会社

(億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	増収率	
			前年同期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)	10,603	<b>11,048</b>	445	4.2%
正味収入保険料	9,812	<b>10,275</b>	463	4.7%
三井住友海上	3,890	<b>3,914</b>	23	0.6%
あいおいニッセイ同和損保	3,234	<b>3,225</b>	△ 9	△ 0.3%
三井ダイレクト損保	89	<b>86</b>	△ 3	△ 3.4%
海外保険子会社	2,597	<b>3,049</b>	451	17.4%

生保子会社

(億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	増収率	
			前年同期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)*	3,163	<b>3,728</b>	564	17.9%
三井住友海上あいおい生命	1,193	<b>1,171</b>	△ 22	△ 1.9%
三井住友海上プライマリー生命	1,969	<b>2,557</b>	587	29.8%
生命保険料	831	<b>△ 1,604</b>	△ 2,436	△ 292.9%

\* 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結(2022年度第1四半期)①業績の概要 1(トップライン)

(損保子会社[国内・海外])

- ・正味収入保険料は、海外保険子会社の増収を主因に、前年同期比463億円、4.7%の増収の1兆275億円。
- ・国内損保主要2社計の正味収入保険料は、自賠償保険および火災保険が減収となったものの、海上保険や自動車保険の増収などにより14億円、0.2%の増収。除く家計地震・自賠償ベースでは85億円、1.3%の増収。  
 火災保険は、元受保険料は増収したものの、出再保険料の増加により△22億円の減収。  
 海上保険は、資源価格の高騰などによる貿易量の増加により49億円の増収。  
 自動車保険は、半導体不足等による新規販売台数の減少の影響を受けたが、海外受再の増収もあり、26億円の増収。  
 前年の料率改定影響が残る自賠償保険は△70億円の減収。
- ・海外保険子会社の正味収入保険料は、MS Amlinが増収した欧州をはじめ、各地域ともに増収したことや為替影響等により451億円の増収。為替影響を除くベースでは309億円の増収。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命:16ページを参照。MSP生命:17ページを参照。

## グループ連結（2022年度第1四半期）①業績の概要 2（ボトムライン）

（億円）

	2021年度 第1四半期	2022年度		増減率	通期予想
		第1四半期	前年同期比		
経常利益	1,651	935	△ 715	△ 43.4%	3,500
三井住友海上	831	534	△ 297	△ 35.8%	1,800
あいおいニッセイ同和損保	398	360	△ 37	△ 9.4%	950
三井ダイレクト損保	10	10	0	3.2%	
三井住友海上あいおい生命	102	87	△ 15	△ 14.8%	
三井住友海上プライマリー生命	209	54	△ 155	△ 73.9%	
海外保険子会社	132	11	△ 121	△ 91.5%	
その他・連結調整等	△ 33	△ 123	△ 90	-	
四半期純利益※	1,187	604	△ 583	△ 49.1%	2,400
三井住友海上	637	429	△ 208	△ 32.7%	1,350
あいおいニッセイ同和損保	270	239	△ 31	△ 11.5%	640
三井ダイレクト損保	8	10	1	20.3%	0
三井住友海上あいおい生命	65	53	△ 11	△ 17.2%	210
三井住友海上プライマリー生命	150	32	△ 117	△ 78.2%	150
海外保険子会社	88	△ 25	△ 114	△ 128.9%	540
その他・連結調整等	△ 34	△ 136	△ 101	-	△ 490

※連結の四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益。子会社の四半期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

## グループ連結（2022年度第1四半期）①業績の概要 2（ボトムライン）

### <四半期純利益>

#### （グループ連結）

- ・四半期純利益は△583億円減益の604億円。

#### （国内損保主要2社）

- ・保険引受利益は、6月震災（385億円）や交通量回復に伴う自動車保険のロスの増加（194億円）、為替影響、火災保険や傷害保険のロスの増加などによりインカードロスが大幅に増加したため、異常危険準備金の取崩が469億円増加したものの△386億円の減益。  
なお、インカードロスに係る為替影響は外貨建資産等に係る為替関連損益と相殺されるため、四半期純利益への影響は限定的。
- ・資産運用・その他収支は、有価証券売却損益が減少し、有価証券評価損が増加したものの、株式の配当金の増加などによる利配収入の増加などにより51億円の増益。
- ・四半期純利益は、△239億円減益の669億円。

#### （国内生保子会社）

- ・MSA生命：16ページを参照、MSP生命：17ページを参照

#### （海外保険子会社）

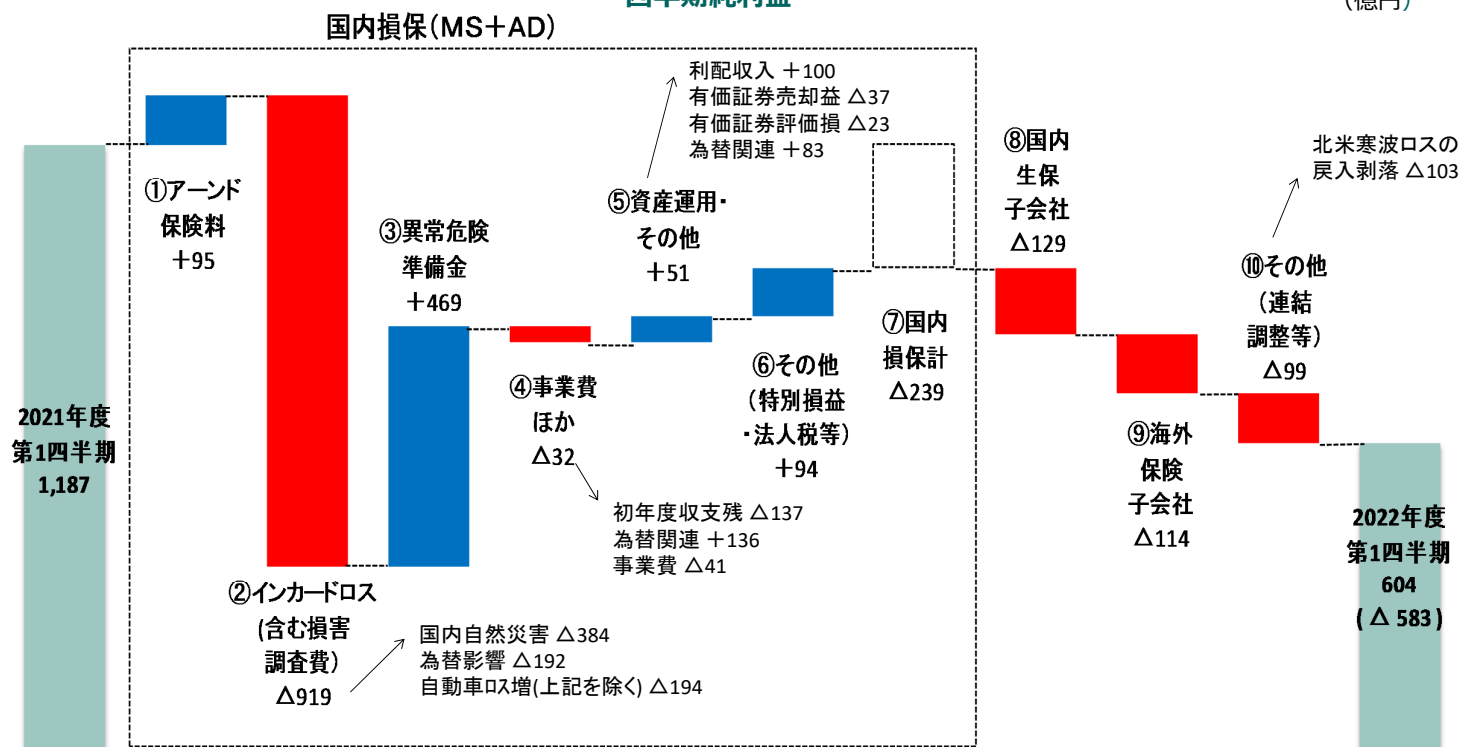
- ・海外保険子会社：18ページを参照、MS Amlin：22ページを参照

## グループ連結（2022年度第1四半期）②前年同期との比較 1

・国内損保計(⑦)は、インカードロス(②)が大幅に増加したため、アード保険料(①)や異常危険準備金(③)、資産運用・その他(⑤)がプラスとなったものの△239億円の減益。国内生保子会社(⑧)も前期好調の反動もあり減益。海外保険子会社(⑨)もロシア・ウクライナ関連のロスなどにより△114億円の減益。以上より、四半期純利益は△583億円の減益。

### 四半期純利益

(億円)



## グループ連結（2022年度第1四半期）②前期との比較 2

### 四半期純利益の内訳

(億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比
四半期純利益	1,187	604	Δ 583
国内損保 <sup>※1</sup> 保険引受利益(除く家計地震・自賠責)	567	180	Δ 386
アード保険料	6,305	6,400	95
インカードロス(含む損害調査費)	Δ 3,428	Δ 4,347	Δ 919
異常危険準備金損益	Δ 229	240	469
事業費ほか <sup>※2</sup>	Δ 2,080	Δ 2,112	Δ 32
資産運用・その他	662	714	51
その他(特別損益・法人税等)	Δ 320	Δ 226	94
国内損保計	908	669	Δ 239
国内生保子会社	216	86	Δ 129
海外保険子会社	88	Δ 25	Δ 114
その他(連結調整等)	Δ 26	Δ 126	Δ 99

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「事業費ほか」には、初年度収支残や自然災害責準、為替差損益などが含まれる

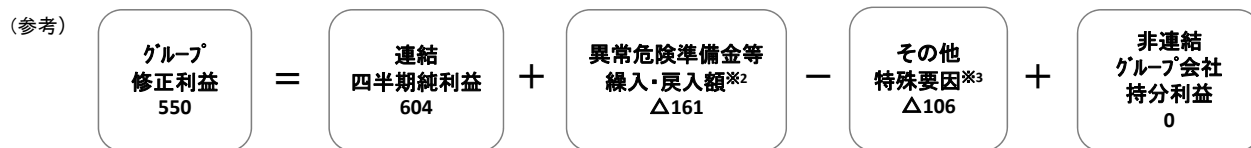
## グループ連結（2022年度第1四半期）③グループ修正利益

- 国内損保事業が大幅な減益となったことに加え、海外事業および国内生保事業も減益となったことから、グループ修正利益は△894億円の減益。

(億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期		通期予想
			前年同期比	
グループ修正利益 <sup>※1</sup>	1,444	550	△ 894	3,000
国内損保事業	1,002	492	△ 510	1,940
国内生保事業	221	95	△ 126	380
海外事業	214	△ 34	△ 249	640
金融サービス事業/リスク関連事業	6	△ 2	△ 8	40

※1「グループ修正利益」の定義は最終ページご参照。なお「グループ修正ROE」は年度末に開示。



※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△69

## グループ連結（2022年度第1四半期）④当年度発生自然災害ロス

- 国内の自然災害ロスは、6月雹災により384億円増加の385億円（自動車234億円、火災149億円）。
- 海外の自然災害ロスは、豪州洪水などにより49億円増加の68億円。

### 国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス			インカードロス 通期予想
	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比	
三井住友海上	1	193	192	400
あいおいニッセイ同和損保	0	192	192	325
合計	1	385	384	725

### 海外自然災害の影響

	インカードロス			インカードロス 通期予想
	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比	
あいおいニッセイ同和損保	18	33	14	125
MS Amlin	119	35	△ 84	257
上記以外(海外子会社および連結調整 <sup>※1</sup> )	△ 119	-	119	
合計	18	68	49	382

※1 連結調整は、2020年度に追加計上した2021年2月北米寒波に係る損害見込額の戻入。

※ 海外自然災害の集計範囲は社内管理ベース。

## 国内損害保険会社（2022年度第1四半期）①主要2社の業績概要 1

- ・ 保険引受利益（異常危険準備金反映前）は、6月雹災や交通量回復に伴う自動車保険ロスの増加、火災保険や傷害保険のロスの増加などにより△856億円の減益。
- ・ 保険引受利益は、異常危険準備金の取崩が469億円増加したものの△386億円の減益。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
正味収入保険料 <sup>※1</sup>	7,139	14	3,914	23	3,225	△ 9
アーンド保険料 <sup>※2、※3</sup>	6,400	95	3,535	61	2,865	33
インカードロス(含む損害調査費) <sup>※2</sup>	(-)	919	2,355	477	1,992	441
保険引受に係る事業費 <sup>※2</sup>	(-)	41	1,252	19	1,059	21
諸手数料及び集金費 <sup>※2</sup>	1,441	23	753	6	687	16
営業費及び一般管理費 <sup>※2</sup>	870	17	498	12	371	5
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△ 59	△ 856	△ 19	△ 524	△ 39	△ 331
異常危険準備金損益	240	469	82	225	157	244
保険引受利益	180	△ 386	63	△ 298	117	△ 87
EI損害率 <sup>※2</sup>	67.9%	13.5pt	66.6%	12.5pt	69.6%	14.8pt
正味損害率 <sup>※1</sup>	63.5%	5.8pt	61.6%	4.6pt	65.7%	7.2pt
正味事業費率 <sup>※1</sup>	35.2%	0.4pt	34.3%	0.2pt	36.3%	0.6pt
コンバインド・レシオ <sup>※1</sup>	98.7%	6.2pt	95.9%	4.8pt	102.0%	7.8pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※3 アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

## 国内損害保険会社（2022年度第1四半期）①主要2社の業績概要 2

- ・ 資産運用・その他収支は、有価証券売却損益が減少し、有価証券評価損が増加したものの、利配収入の増加により51億円増加。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
保険引受利益	180	△ 386	63	△ 298	117	△ 87
ネット利息及び配当金収入	641	100	462	67	179	33
有価証券売却損益	154	△ 37	45	△ 72	109	35
有価証券評価損 (-)	66	23	56	40	9	△ 17
資産運用・その他収支	714	51	471	1	243	50
経常利益	895	△ 334	534	△ 297	360	△ 37
特別損益	△ 69	△ 27	△ 14	△ 1	△ 55	△ 26
税引前四半期純利益	825	△ 362	519	△ 298	305	△ 63
法人税等	156	△ 122	90	△ 89	65	△ 32
四半期純利益	669	△ 239	429	△ 208	239	△ 31

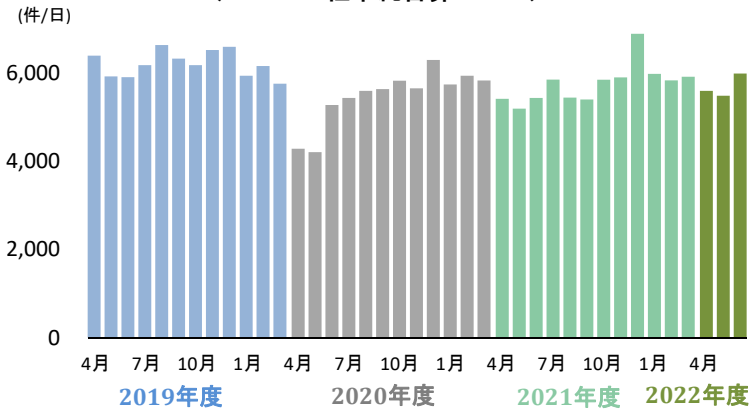
	2社合計(単純合計)	
		前年同期比
(参考) 政策株式売却額	302	101

## 国内損害保険会社（2022年度第1四半期）②自動車保険の状況

- ・事故件数は、交通量増加により、6月末累計で前年同期比7.3%の増加。ただし、2019年度同期比では△4.3%の減少。
- ・EI損害率は12.1pt上昇の62.8%。自然災害（6月雹災）を除くベースでは5.6pt上昇の56.3%。

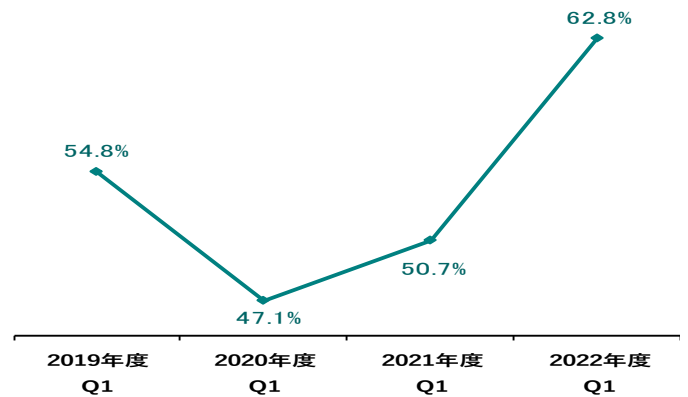
### 事故件数の推移（国内、1日あたり、除く自然災害）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



### EI 損害率の推移（含む損害調査費）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



### 保険料・保険金

三井住友海上

＜国内・営業ベース＞	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	△ 0.6%	△ 0.3%	△ 1.0%
＜国内＞	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+1.4%	△ 0.1%	

あいおいニッセイ同和損保

＜国内・営業ベース＞	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	△ 0.3%	+0.3%	+0.0%
＜国内＞	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+0.7%	+0.1%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース（4-6月）の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2022年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2022年6月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-6月

## 国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2022年度第1四半期）業績概要

- ・新契約高は、収入保障保険の販売が減少したこと等により前年同期比△28.5%。
- ・四半期純利益は、新型コロナ第6波による給付金請求の増加等により△11億円の減益。

### 三井住友海上あいおい生命

（億円）

	2021年度		2022年度	
	第1四半期	第1四半期	前年同期差	増減率
新契約高（個人合計）	4,732	3,381	△ 1,350	△ 28.5%
新契約年換算保険料	63	57	△ 6	△ 10.5%
うち 第三分野	34	27	△ 7	△ 20.7%
保有契約高（個人合計）	(2022年度期首) 238,477	236,965	(2022年度期首比) △ 1,512	△ 0.6%
保有契約年換算保険料	(2022年度期首) 4,438	4,428	(2022年度期首比) △ 9	△ 0.2%
うち 第三分野	(2022年度期首) 1,524	1,532	(2022年度期首比) 8	0.5%
保険料（グロス収入保険料）	1,193	1,171	△ 22	△ 1.9%
経常利益	102	87	△ 15	△ 14.8%
特別損益	△ 3	△ 3	△ 0	-
四半期純利益	65	53	△ 11	△ 17.2%
基礎利益（※）	89	76	△ 13	△ 14.9%

（※）当2022年第1四半期から、新基準に基づき開示方法の変更を行っております。これに伴い、2021年度第1四半期の数値も遡及して新基準に基づいた数値で記載しております。



## 国内生命保険会社 三井住友海上プライマリー生命（2022年度第1四半期）業績概要

- ・ グロス収入保険料は、マーケット環境の改善に加え、主力商品の改定、積極的な営業活動により、29.8%増収。
- ・ 四半期純利益は、外貨建て保険の標準責任準備金の繰入負担や債券等の評価損が発生したほか、前年度に債券売却益を計上した反動を主因に、△117億円減益の32億円。

### 三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比	
			前年同期比	増減率
新契約高（個人合計）	1,980	<b>2,628</b>	648	32.7%
保有契約高（個人合計）	(2022年度期首) 68,036	<b>67,827</b>	(2022年度期首比) △ 208	△ 0.3%
保険料(グロス収入保険料)	1,969	<b>2,557</b>	587	29.8%
経常利益	209	<b>54</b>	△ 155	△ 73.9%
特別損益	-	<b>△ 9</b>	△ 9	-
価格変動準備金繰入・戻入	-	<b>△ 9</b>	△ 9	-
四半期純利益	150	<b>32</b>	△ 117	△ 78.2%

### 金利・為替影響

(億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期
金利影響	66	<b>△ 277</b>
為替影響	3	<b>119</b>
合計*	70	<b>△ 157</b>

※ 有価証券売却損益を含む(2021年度第1四半期 +47億円、2022年度第1四半期 △30億円)

## 海外保険子会社（2022年度第1四半期）業績概要

- ・ 正味収入保険料は、MS Amlinが増収した欧州をはじめ、各地域ともに増収したことに加え、為替影響もあり451億円の増収。
- ・ 四半期純利益は、欧州の△91億円の減益を主因に△114億円の減益。MS AmlinについてはP22を参照。

### 海外保険子会社

(億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比	
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	2,597	<b>3,049</b>	451	17.4%
アジア	425	<b>508</b>	83	19.6%
欧州	2,077	<b>2,408</b>	331	15.9%
米州	95	<b>132</b>	37	38.9%
四半期純利益	88	<b>△ 25</b>	△ 114	△ 128.9%
アジア	73	<b>75</b>	1	2.6%
欧州	△ 51	<b>△ 143</b>	△ 91	-
米州	15	<b>3</b>	△ 11	△ 76.0%
海外生保	51	<b>38</b>	△ 12	△ 25.1%

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2022年度第1四半期) 主要2社の業績概要 1

### 正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
	2021年度	2022年度	増収率	2022年度	増収率	2022年度	増収率
火災	834	812	Δ2.6%	414	Δ3.6%	398	Δ1.6%
海上	169	218	29.0%	202	31.9%	16	0.8%
傷害	581	605	4.1%	429	3.6%	175	5.4%
自動車	3,656	3,682	0.7%	1,734	Δ0.3%	1,948	1.6%
自賠責	697	627	Δ10.1%	321	Δ10.8%	305	Δ9.2%
その他	1,185	1,192	0.6%	811	2.5%	380	Δ3.0%
合計	7,125	7,139	0.2%	3,914	0.6%	3,225	Δ0.3%
除く家計地震・自賠責	6,425	6,511	1.3%	3,592	1.8%	2,918	0.8%

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2022年度第1四半期) 主要2社の業績概要 2

### EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比
火災 (除く家計地震)	62.0%	<b>93.1%</b>	31.1pt	60.5%	<b>75.3%</b>	14.8pt
海上	65.8%	<b>69.2%</b>	3.4pt	65.8%	<b>69.2%</b>	3.4pt
傷害	52.2%	<b>62.2%</b>	10.0pt	52.2%	<b>62.2%</b>	10.0pt
自動車	50.7%	<b>62.8%</b>	12.1pt	50.7%	<b>56.3%</b>	5.6pt
その他	58.7%	<b>63.4%</b>	4.7pt	58.7%	<b>63.3%</b>	4.6pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	54.4%	<b>67.9%</b>	13.5pt	54.1%	<b>61.4%</b>	7.3pt

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したものを示す

## (ご参考) 国内損害保険会社(2022年度第1四半期) 主要2社の業績概要 3

### EI損害率(三井住友海上(単体)、あいおいニッセイ同和損保(単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比		前期比
火災 (除く家計地震)	91.2%	30.3pt	95.2%	32.1pt	76.2%	14.6pt	74.4%	15.1pt
海上	65.7%	2.0pt	112.7%	31.7pt	65.7%	2.0pt	112.7%	31.7pt
傷害	64.3%	12.0pt	57.4%	5.4pt	64.3%	12.0pt	57.4%	5.4pt
自動車	61.6%	11.7pt	63.9%	12.4pt	55.2%	5.3pt	57.3%	5.8pt
その他	61.8%	3.8pt	66.9%	6.8pt	61.8%	3.7pt	66.9%	6.8pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	66.6%	12.5pt	69.6%	14.8pt	61.1%	6.9pt	61.7%	7.6pt

※ インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

## (ご参考) MS Amlin 2022年度第1四半期(2022年1-3月期)業績概要※1

- ・第1四半期の純利益は、ロシア・ウクライナ関連ロスの影響や、資産運用益のマイナスを主因に、△93百万ポンドとなった。
- ・保険引受利益は、ロシア・ウクライナ関連ロスの影響95百万ポンド(財物・貨物等を中心に、予備的な備金含む)を計上したこと等から、△66百万ポンドとなったが、同ロス影響を除くと29百万ポンドとなっている。
- ・資産運用損益は、機動的な株式ヘッジや債券デュレーションの抑制などの対応を行っているものの、足元の急速なマーケット変動(金利上昇による債券価格下落、および株価下落)により、運用損失△21百万ポンドを計上した。

(百万ポンド)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比
正味収入保険料	1,274	1,398	125
アード保険料	642	641	△1
インカードロス(含む損害調査費)	438	492	54
手数料・社費	231	235	5
保険引受利益	△41	△66	△25
資産運用損益※2	14	△21	△35
その他損益※3	△16	△9	8
四半期純利益	△49	△93	△44
EI 損害率	68.3%	76.8%	8.5pt
EI 事業費率※4	38.1%	33.5%	△4.6pt
EI コンバインド・レシオ※4	106.4%	110.3%	3.9pt

ロシア・ウクライナ関連ロスの影響を除いた場合 (百万ポンド)

	2022年度 第1四半期	前年同期比
EI 損害率	62.3%	△6.0pt
EI 事業費率※4	33.2%	△4.9pt
EI コンバインド・レシオ※4	95.5%	△10.9pt
保険引受利益	29	70

※1 現地管理ベース

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

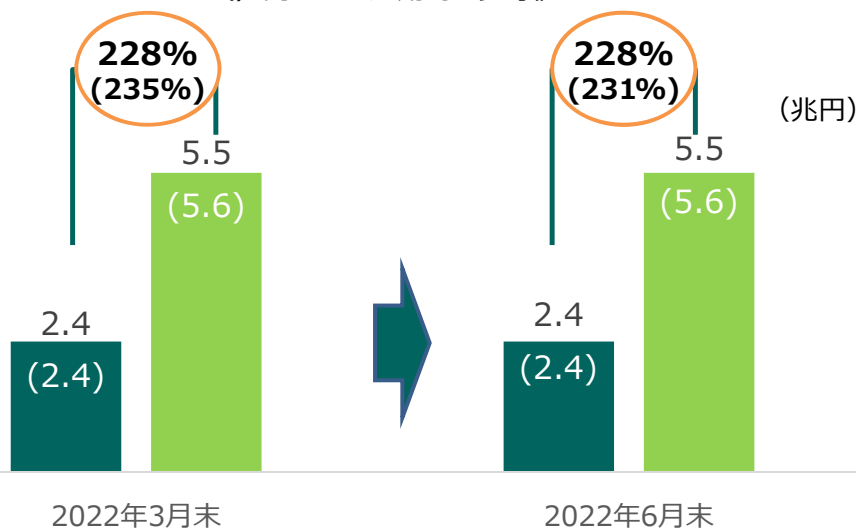
※3 保険事業会社以外で生じる経費等

※4 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を含めて算出

ESR<sup>(注1)</sup>

■ 統合リスク量<sup>(注2)</sup> ■ 時価純資産

( ) 内はUFR適用時の参考値



<ESRの主な増減要因>  
(2022年3月末対比)

ESRは2022年3月末と同水準(±0pt)。

- ✓ 内部留保が増加する一方で、市場環境の変動等により、ほぼ横ばい。

<市場環境>

	2022年 3月末	2022年 6月末	対2022年 3月末比
日経平均株価	27,821円	26,393円	▲1,428円
国債30年金利	0.94%	1.24%	+0.30pt
為替 (ドル円)	122円	137円	+15円

(注1) ESR : エコミック・ソルベンシー・レシオ (=時価純資産÷統合リスク量)

(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株)
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険株)
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険株)
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険株)
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険株)
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険株)
- ・ MS Amlin (＝AUL、AAG、AISE、ACSを主とする各事業の合計)

AUL (＝MS Amlin Underwriting Limited)

AAG (＝MS Amlin AG)

AISE (＝MS Amlin Insurance SE)

ACS (＝MS Amlin Corporate Services Limited)

## 「グループ修正利益、修正純資産、グループ修正ROE」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因（のれん・その他無形固定資産償却額等）+ 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産（期初・期末平均）

## 予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

### お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社  
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>